2027年3月期 第2四半期(中間期)
決算補足説明資料

株式会社ノサワ

―やすらぎと安心の創造―

証券コード:5237

目次

株式会社ノサワ

1. 2027年3月期第2四半期 連結決算の概要 P.3
2. 連結貸借対照表前期末比較 P.11
3. 連結キャッシュ・フローの状況 P.12
4. 連結経営指標（第2四半期） P.13
5. 2027年3月期 連結業績予想 P.15
6. トピックス P.19

1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

1-1　連結損益計算書前年同期比較

（金額:百万円）

	2027/3月期 2Q 実績		2026/3月期 2Q 実績		増減		2027/3月期 2Q 5/15発表予想値	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	達成率
売上高	11,332		11,572		▲240		11,200	101.2%
営業利益	751	6.6%	1,116	9.7%	▲365	▲ 3.1pt	910	82.6%
経常利益	865	7.6%	1,213	10.5%	▲347	▲ 2.9pt	1,060	81.6%
特別利益	-	-	5	-	▲5	-		-
特別損失	294	-	799	-	▲504	-		-
親会社株主に帰属する中間純利益	334	3.0%	454	3.9%	▲119	▲ 0.9pt	690	48.5%

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、AI関連需要の拡大などを背景に緩やかな回復が続いた一方、中東情勢の長期化による資源価格の変動や物価上昇の継続により、先行き不透明な状況で推移しました。建築材料業界におきましては、人手不足と建設費高止まりによる建設計画の中止・延期の長期化、中東情勢の影響による各種資材の価格上昇及び資材調達不安の継続など、厳しい事業環境が続いております。このような状況のなか、当中間連結会計期間の業績は、前年同期比減収減益となりました。売上高については、住宅向け商品の減少により連結売上高は減収、営業利益・経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は、減収の影響や物価上昇に伴う原価高騰等により減益となりました。

1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

当上期の中期経営計画「NOZAWA NEXT3」の実行状況

【「志」KOKOROZASHI-Vision】

目指す姿（ノザワの使命の実現）に向け、新商品・新工法の開発を推進

- 反射光による温度上昇を抑制するアスロックデザインパネル「レフダイヤ」を８月に発表しました。三角錐を組み合わせた独自の表面形状により、太陽光を太陽の方向へ反射する「再帰性反射性能」を備えています。反射光による周辺の建物などの温度上昇を抑え、ヒートアイランド現象の緩和が期待できる、デザイン性と環境への配慮を両立した外壁材です。10月より販売開始。（詳細はP.21）

【「実」MINORI-Profit】

既存事業の収益拡大を推進。

- 子会社のノザワ商事と共同開発したアスロック向け多色仕上げ現場塗装工法「ミルフィア」の提供を5月より開始しました。アスロックの特性を踏まえて開発した多色仕上げの塗装工法で、熟練職人が塗料を重ねることで工場塗装では難しい繊細な色合いや「斑感(むらかん)」のある深み豊かな風合いを生み出し、高級感と個性を演出します。（詳細はP.19）
- AGCグループと共同で「アスロックレールファスナー太陽光パネル設置工法」を７月に発表しました。高効率太陽光パネルの採用により、従来品と比較して発電効率を50%向上させています。屋上だけでは確保しきれない発電スペースを外壁に広げ、建築物の再生可能エネルギー活用を支援します。（詳細はP.20）

1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

当上期の中期経営計画「NOZAWA NEXT3」の実行状況

【「実」MINORI-Profit】

- 販売面では、工場複色塗装仕上げのアスロック「淡斑(あわむら)」「彩雲(さいうん)」及び素地仕上げアスロック「澄肌(すみはだ)」の販売数量を伸ばしました。（複色塗装仕上げ品：前年同期比130%増　澄肌：前年同期比417%増）
- スレートボードでは、セメントの素材感を生かした内装用ボード「ナチュラーレ」の販売数量を伸ばしました。（前年同期比16%増）
- 生産面では、インフレ圧力や資材調達の不透明感が強まるなか、エネルギーの有効活用や各種製造条件の見直しによって生産性を高め、製造原価の低減に努めました。（製造原価：前年同期比3.6%削減）

【「礎」ISHIZUE-Base】

組織基盤の強化を推進

- 4年連続となる賃金ベースアップを実施しました。
- 本社オフィスの執務スペース拡充、現場作業における熱中症対策として冷却ベスト導入など、働きやすい職場づくりを進めました。
- IR面では個人投資家向けホームページも新設し、長期的な信頼関係の構築に取り組んでおります。

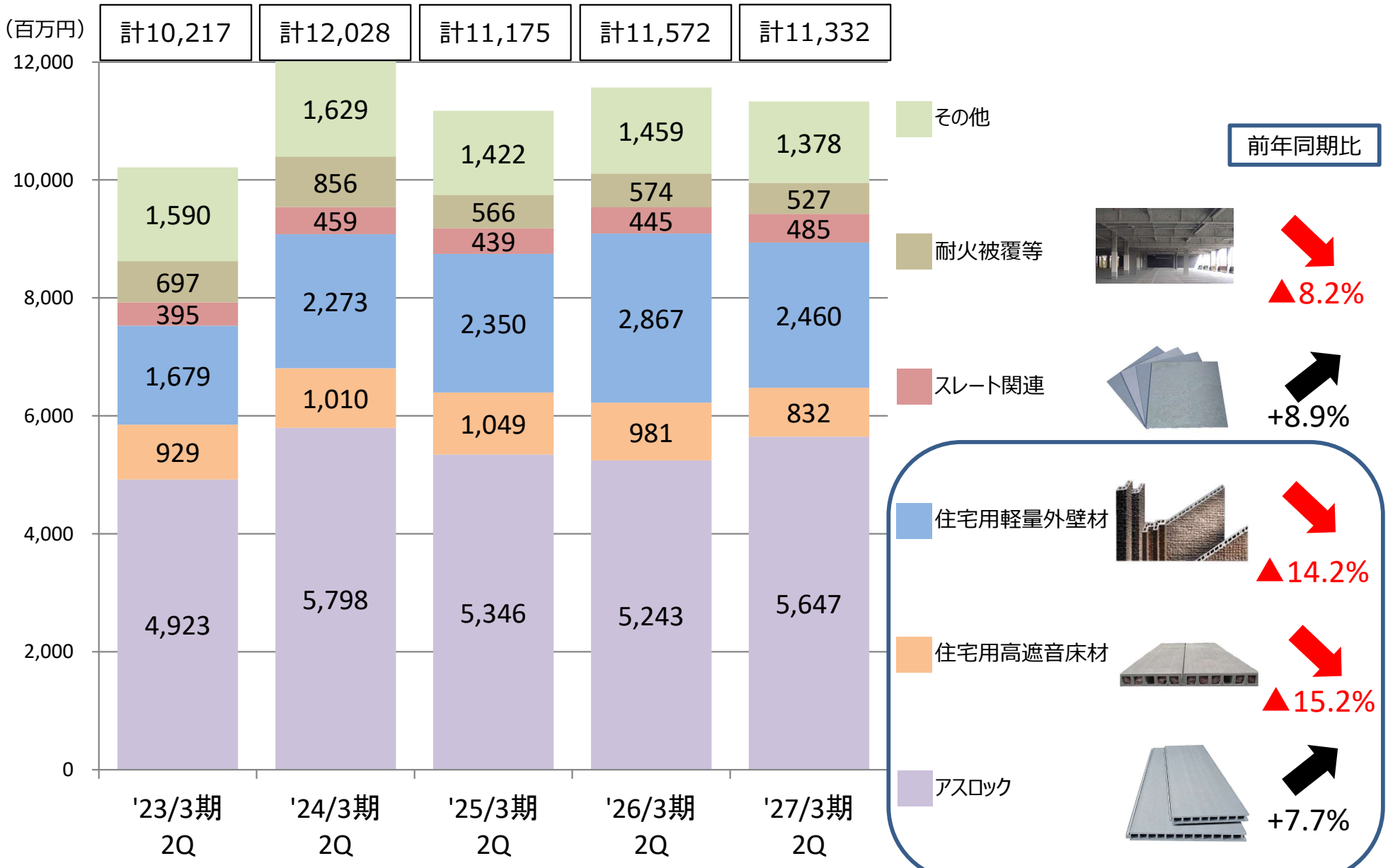
1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

1-2　売上高［前年同期比2億40百万円減収の113億32百万円］

- 人手不足の加速、中東情勢の緊迫化や金利上昇を背景として、建築工事の工期遅延、建築価格高騰による計画の中止や計画延期の長期化・常態化、建築規模の縮小等が当社グループの事業に影響を及ぼし、当上期においても厳しい事業環境が続きました。このような状況のなか、当社グループは、中期経営計画「NOZAWA NEXT 3」に基づき、各種施策を推進しました。
- 主力の一般建築向け押出成形セメント製品「アスロック」については、前年に引き続き、建築現場の省力化を実現する商品を高価格・低価格の両価格帯でラインアップし、拡販に注力しました。その結果、品質の高い工場塗装で現場省力化を実現する高付加価値商品「工場塗装品」や、塗装不要でも美しい仕上がりとコストダウンを両立する素地仕上げ品「澄肌(すみはだ)」の販売数量を伸ばしました。また、販売価格は当上期も上昇し、アスロック売上高は前年同期比4億4百万円増収の56億47百万円となりました。
- 住宅向け押出成形セメント製品については、金利上昇や建築費高騰を背景とした住宅市場低迷等により「住宅用高遮音床材」・「住宅用軽量外壁材」合わせて5億55百万円減収の32億93百万円となりました。これらの結果、押出成形セメント製品合計では、1億51百万円減収の89億40百万円となりました。
- スレートボードは、当上期においても、セメントの素材を生かした内装用ボード「ナチュラーレ」がお客様から好評を得て販売が伸長したこと等により、39百万円増収となる4億85百万円となりました。
- 工事については、アスロック工事の増加等により、前年同期比25百万円増収となりました。

1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

1-2　売上高　［連結品種別売上高推移］

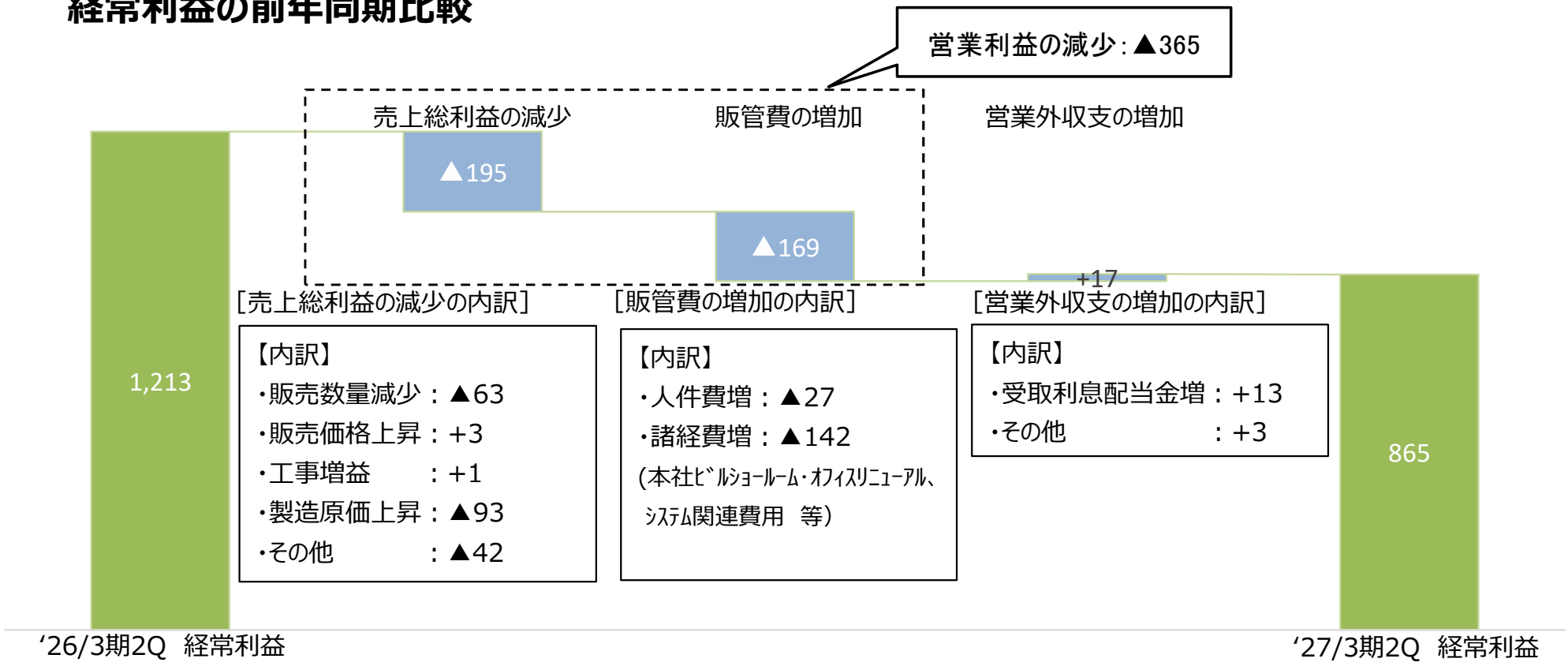


1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

1-3　各段階利益

［営業利益　前年同期比3億65百万円減益の7億51百万円］
［経常利益　前年同期比3億47百万円減益の8億65百万円］

経常利益の前年同期比較



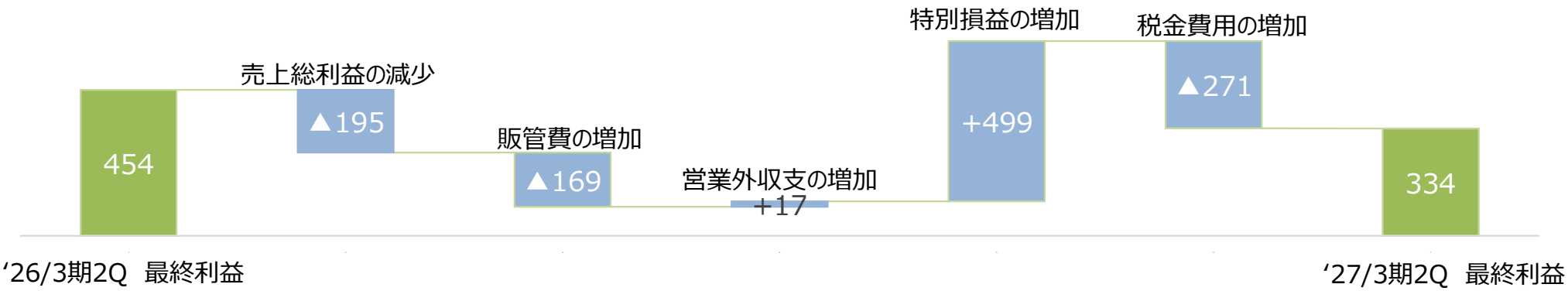
1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

- 当上期は、中東情勢の緊迫化・長期化により、資材調達を巡る不透明感が顕在化したことに加え、インフレ圧力が一段と強まり、原材料価格が急騰、エネルギー価格の上昇と相まって大幅なコスト増となりました。このほか、減産による固定費負担の増加などと合わせて、製造原価は前年同期比3.2億円の増加要因がありました。このような逆風のなか、生産部門においてはNNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動を積極的に展開し、エネルギー使用量低減・人員配置の見直し・生産性の向上を実現、製造原価の増加を2.3億円圧縮し、0.9億円の増加に留めました。
- これら製造原価上昇と減収の影響により、商品売上総利益は1.9億円の減益となりました。
- 工事売上総利益は前年同期並みに推移し、連結売上総利益は前年同期比1億95百万円減益の31億17百万円となりました。
- 連結売上総利益率は、製造原価上昇や、商品売上高と比較して相対的に利益率の低い工事売上高の比率上昇等により、前年同期比1.1ポイント低下の27.5%となりました。
- 販管費については前年同期比1億69百万円増の23億65百万円となりました。物流費は、燃料高騰によるコスト上昇分の顧客への転嫁を進めたこと等により、増加を抑えました。一方、ベア実施に伴う人件費増加、本社ビルのショールーム・執務スペースのリニューアル費用、システム関連費用等で増加し、売上高比販管費率は1.9ポイント上昇の20.9%となりました。
- これらのことから営業利益は前年同期比3億65百万円減の7億51百万円となりました。
- 営業外収益は、受取利息・受取配当金の増加等により18百万円増加。営業外費用は、手形売却費の増加等により１百万円増加。これらを併せた営業外収支は前年同期比17百万円好転し、経常利益は前年同期比3億47百万円減の8億65百万円となりました。

1．2027年3月期第2四半期　連結決算の概要

［親会社株主に帰属する中間純利益　前年同期比1億19百万円減益の3億34百万円］

最終利益の前年同期比較



- 特別損失は前年同期比5億4百万円減少の2億94百万円となりました。主に訴訟損失が5億25百万円減少したことによります。
- これらの結果、特別損益の合計は2億94百万円の損失となり、前年同期比4億99百万円好転となりました。
- 上記に税金費用を加え、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比1億19百万円減益の3億34百万円となりました。

2．連結貸借対照表前期末比較

【連結貸借対照表　主な前期末比増減】

（百万円）

科目	増減額
流動資産	
現金及び預金	▲592
受取手形及び売掛金等	+116
電子記録債権	+513
棚卸資産	▲74
その他	▲71
計	▲109
固定資産	
有形固定資産	+315
無形固定資産	+0
投資有価証券	+567
その他	▲26
計	+856
資産計	+746

科目	増減額
流動負債	
支払手形及び買掛金	+51
未払法人税等	+81
賞与引当金	▲20
その他	+197
計	+310
固定負債	
退職給付に係る負債	▲26
訴訟損失引当金	▲22
その他	+265
計	+216
負債計	+526
純資産	
資本剰余金	+14
利益剰余金	▲177
自己株式	+5
その他有価証券評価差額金	+384
その他	▲7
純資産計	+220
負債純資産計	+746

【総資産の増減】
総資産は前期末比7.4億円増加。主に投資有価証券が株価上昇等により5.6億円増加したことによります。

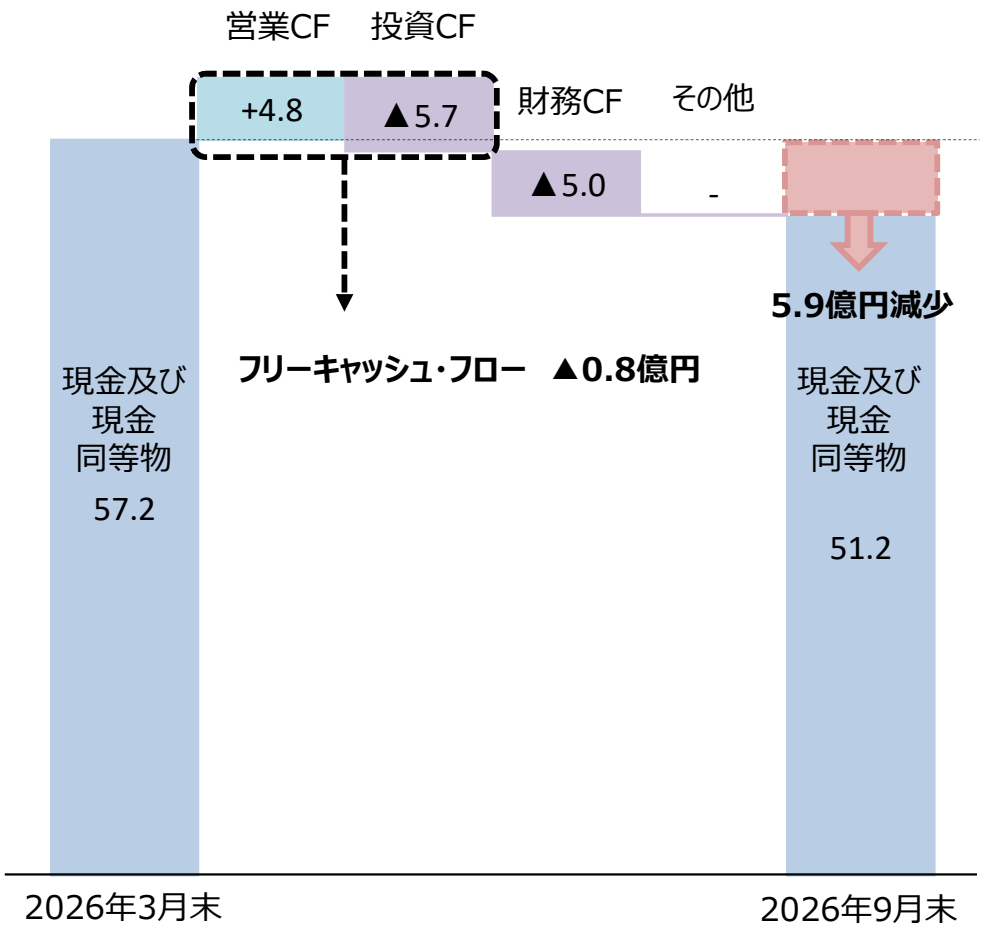
【負債の増減】
負債は前期末比5.2億円増加。主に流動負債・固定負債のその他が4.6億円増加したことによります。

【純資産の増減】
純資産は前期末比2.2億円増加。主にその他有価証券評価差額金が3.8億円増加したことによります。

3．連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは+4.8億円、投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得等により▲5.7億円となり、フリーキャッシュ・フローは▲0.8億円。財務キャッシュ・フローは▲5.0億円。
- 上記の結果、当上期末の現金及び現金同等物は前期末比5.9億円減少の51.2億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】



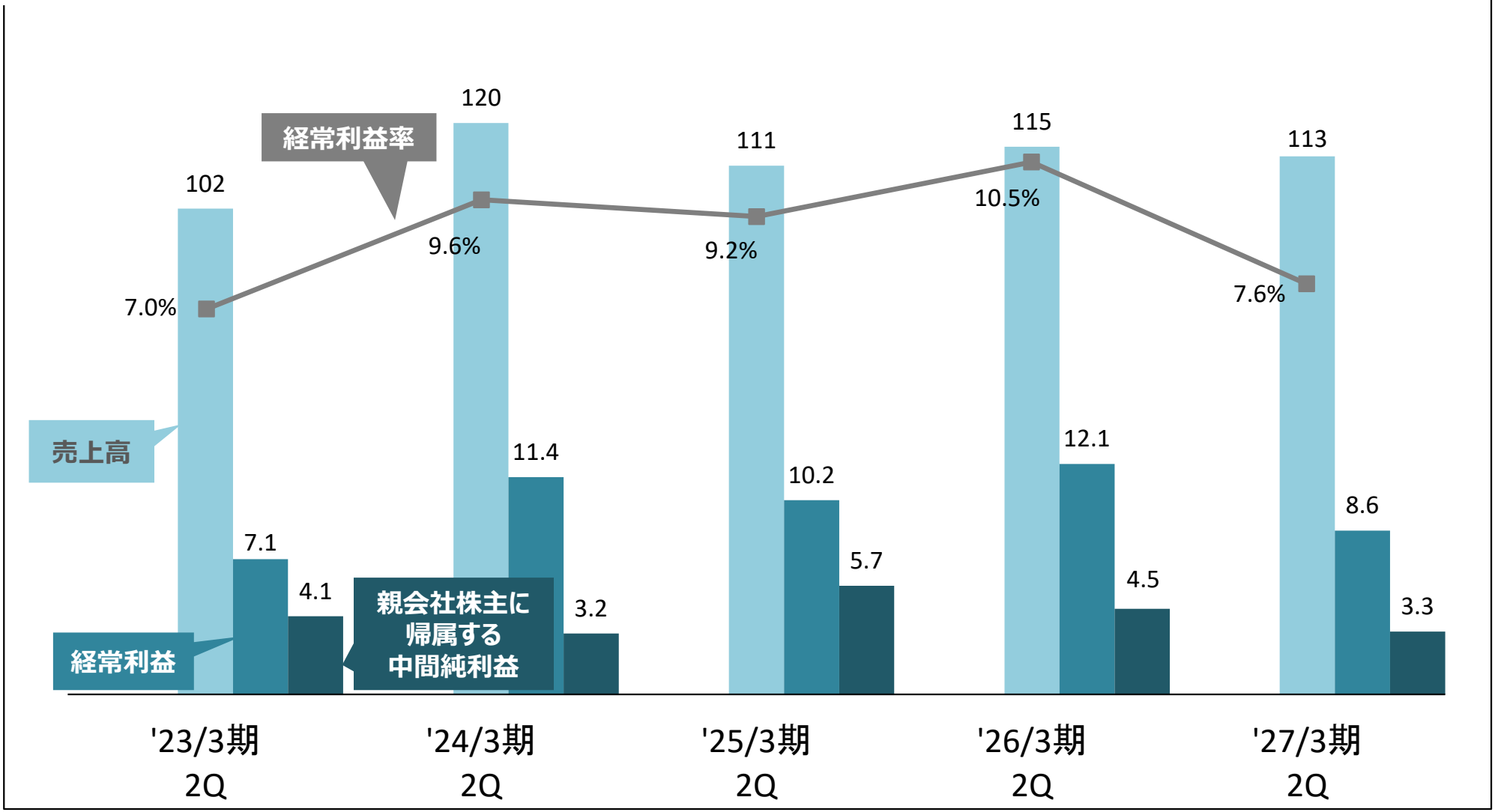
【連結キャッシュ・フロー計算書 概要】

(百万円)

項目	金額	備考
税金等調整前中間純利益	570	
減価償却費	407	
売上債権の増減額	▲613	
棚卸資産の増減額	74	
仕入債務の増減額	21	
その他	27	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	488	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲571	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲509	主に配当金の支払い

4．連結経営指標推移（第2四半期）

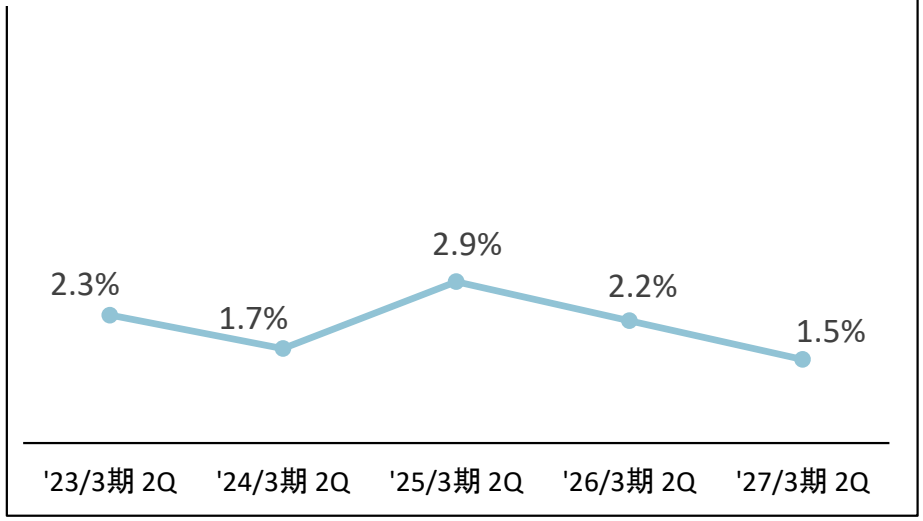
売上高、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益（億円）並びに経常利益率



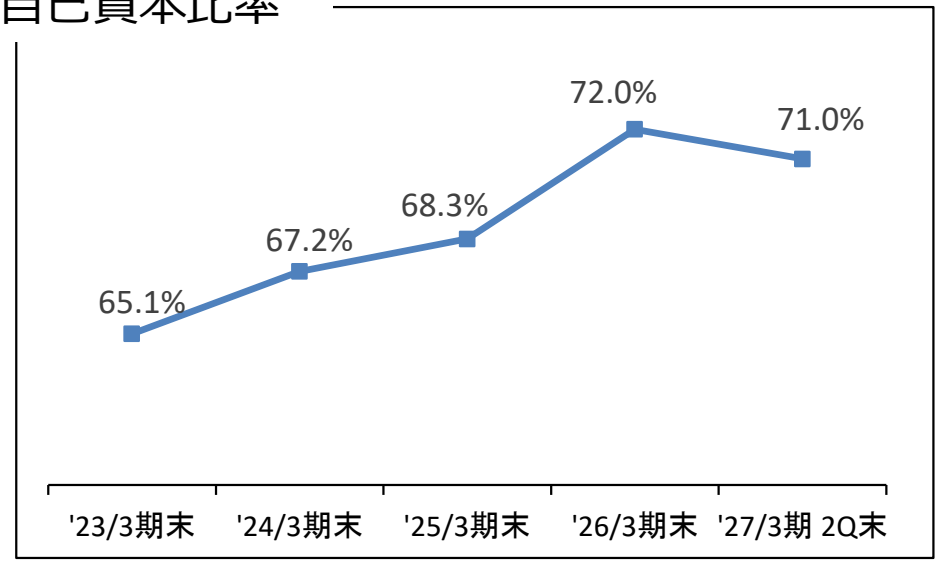
4．連結経営指標推移（第2四半期）

株式会社ノサワ

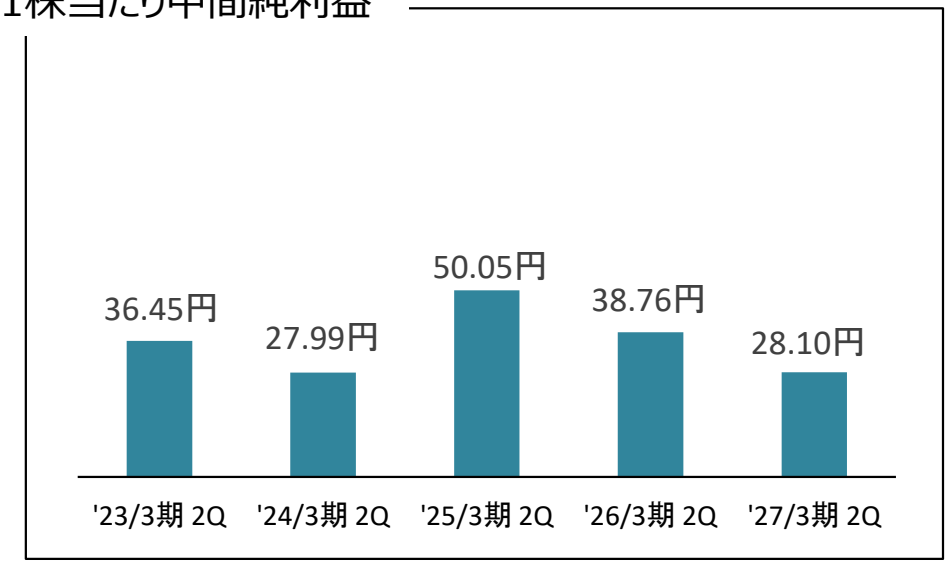
自己資本中間純利益率(ROE)



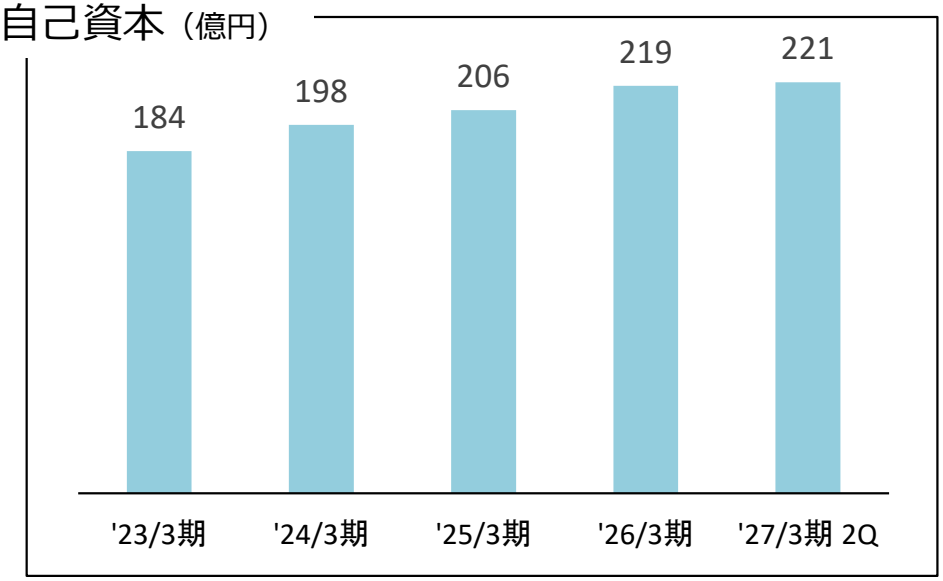
自己資本比率



1株当たり中間純利益



自己資本（億円）



5．2027年3月期 連結業績予想

通期連結業績予想の修正

（金額:百万円）

	2027年3月期 今回予想値		2026年3月期 実績		増減 (2026年3月期実績比)		2027年3月期 5/15発表予想値		増減 (5/15発表予想比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	22,000		22,312		▲312		22,700		▲700	
営業利益	1,460	6.6%	1,993	8.9%	▲533	▲ 2.3pt	2,170	9.6%	▲710	▲ 3.0pt
経常利益	1,630	7.4%	2,166	9.7%	▲536	▲ 2.3pt	2,370	10.4%	▲740	▲ 3.0pt
親会社株主に帰属する当期純利益	800	3.6%	605	2.7%	+194	+0.9pt	1,560	6.9%	▲760	▲ 3.3pt

2027年3月期の通期連結業績予想につきましては、昨今の当社グループを取り巻く事業環境を反映し、上記のとおり修正いたします。

5．2027年3月期 連結業績予想

通期業績予想　前期比較（上期･下期）

（金額:百万円）

	2027年3月期 今回予想値			2026年3月期			増減		
	上期(実績)	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	11,332	10,667	22,000	11,572	10,740	22,312	▲240	▲72	▲312
営業利益	751	708	1,460	1,116	876	1,993	▲365	▲168	▲533
経常利益	865	764	1,630	1,213	953	2,166	▲347	▲188	▲536
親会社株主に帰属する当期純利益	334	465	800	454	150	605	▲119	+314	+194

5．2027年3月期 連結業績予想

【下期の見通し（前年同期比較）】

売上高

- 一般建築向け「アスロック」の市場環境は、上期に引続き、建築工事における人手不足と建築コスト高に伴う新規着工の遅れ、規模縮小及び工期遅延等により、厳しい状況が続く見通しです。このため、販売数量は伸び悩み、前年同期比減少を見込んでおります。
- 住宅向け押出成形セメント製品についても、金利上昇や建築コストの高騰に伴う賃貸集合住宅の新築投資意欲の低下等により、販売数量は前年同期を下回る見通しです。
- 販売価格については、昨今の原価高騰を受け、押出成形セメント製品及びスレートボードの価格改定を実施しており、販売価格は前年同期比上昇する見込みですが、販売数量減少による減収影響が価格改定による増収効果を上回り、下期の連結売上高は前年同期比72百万円の減収を見込んでおります。

利益

- 原価面では、原料・エネルギー価格の高止まりや、工場塗装品の塗料価格上昇に伴う塗装コスト増加により、製造原価上昇が見込まれ、販管費については、燃料費上昇等による物流費増加、ベア等による人件費増加等が見込まれます。
- これらにより、下期の営業利益は、前年同期比1億68百万円減少する見込みです。
- 営業外収支は、前期に受取保険金を計上していた反動等から前年同期比悪化することが見込まれ、下期の経常利益は前年同期比1億88百万円減少する見込みです。

5．2027年3月期 連結業績予想

【通期の見通し】

- 下期の状況を踏まえ、通期業績予想を以下のとおり修正いたします。
- 売上高は前年同期比3億12百万円減収の220億円、営業利益は5億33百万円減益の14億60百万円、経常利益は5億36百万円減益の16億30百万円となる見込みです。親会社株主に帰属する当期純利益は、経常減益となる一方、前期は特別損失に訴訟損失・減損損失等を計上していた反動等により前年同期比1億94百万円増益の8億円となる見込みです。
- なお、配当予想に変更はありません。

- 逆風が強まる事業環境ではありますが、当社グループは、中期経営計画「NOZAWA NEXT 3」の着実な実行により、収益拡大と利益確保を図ってまいります。

6．トピックス–現場塗装工事事業に進出

多色仕上げ現場塗装工法「ミルフィア」の塗装工事事業を開始 2026年5月より営業開始

現場塗装工法「ミルフィア」は、押出成形セメント板「アスロック」の特性を踏まえて開発した多色仕上げの塗装工法です。熟練職人が塗料を重ねることで、工場塗装では難しい繊細な色合いや「斑感(むらかん)」のある深み豊かな風合いを実現します。また、アスロック専用の密着性・耐久性に優れた塗料を採用しています。アスロックの出荷数量のうち約7割を現場塗装が占め、そのうち複色塗装は約21万㎡と、大きな市場を形成しています。「ミルフィア」の特長を生かし、これまで工場塗装品が採用されなかった案件を含め、現場複色塗装の需要を取り込むことで、塗装事業の領域を拡大し、売上・利益の拡大に寄与する事業として展開していきます。



現場塗装工法「ミルフィア」施工イメージ

6．トピックス－新商品発売

「アスロックレールファスナー太陽光パネル設置工法」を2026年7月に本格販売（国内初の本格販売）

政府は、2030年までに太陽光発電の導入量を100GW以上とする目標を掲げています。導入拡大に向けて設置場所の確保が課題となる中、工場や倉庫、データセンターなど、建物を活用した太陽光発電の普及拡大が期待されています。当社は、こうした需要に加え、ZEB※1の普及や省エネ基準の強化に伴う脱炭素化需要をとらえ、外壁への太陽光パネル設置を通じて、アスロックの販売拡大を目指します。
本工法は、外壁を発電スペースとして活用し、屋上だけでは不足する設置面積を補える点が特長です。
最新の太陽光パネルを採用し、効率的に発電量を確保します。例えば、南面の外壁に設備容量10kW※2の太陽光パネルを約50㎡に設置した場合、年間約4,015kWh※2と、一般家庭約1世帯分の年間電気使用量に相当する発電量を見込んでいます※3。壁面設置により積雪の影響を受けにくく、冬季の発電に対応します。また、大地震を想定した建物の揺れに対しても安全性を確保しています。

※1 ZEB：省エネ設計や高効率設備でエネルギー消費を減らし、太陽光発電などでエネルギーを創ることで、年間のエネルギー消費量の実質ゼロを目指した建築物です。
※2 kW（キロワット）：電力。どれだけ電力を発生させる能力があるかを表す単位。 kWh（キロワット時）：電力量。発電又は使用した電気の量を表す単位。
※3 一般家庭の年間電気使用量は全国平均3,911kWh（環境省「令和５年度家庭部門のCO2排出実態統計調査 資料編（確報値）」）



アスロックレールファスナー太陽光パネル設置工法



データセンターへの施工イメージ

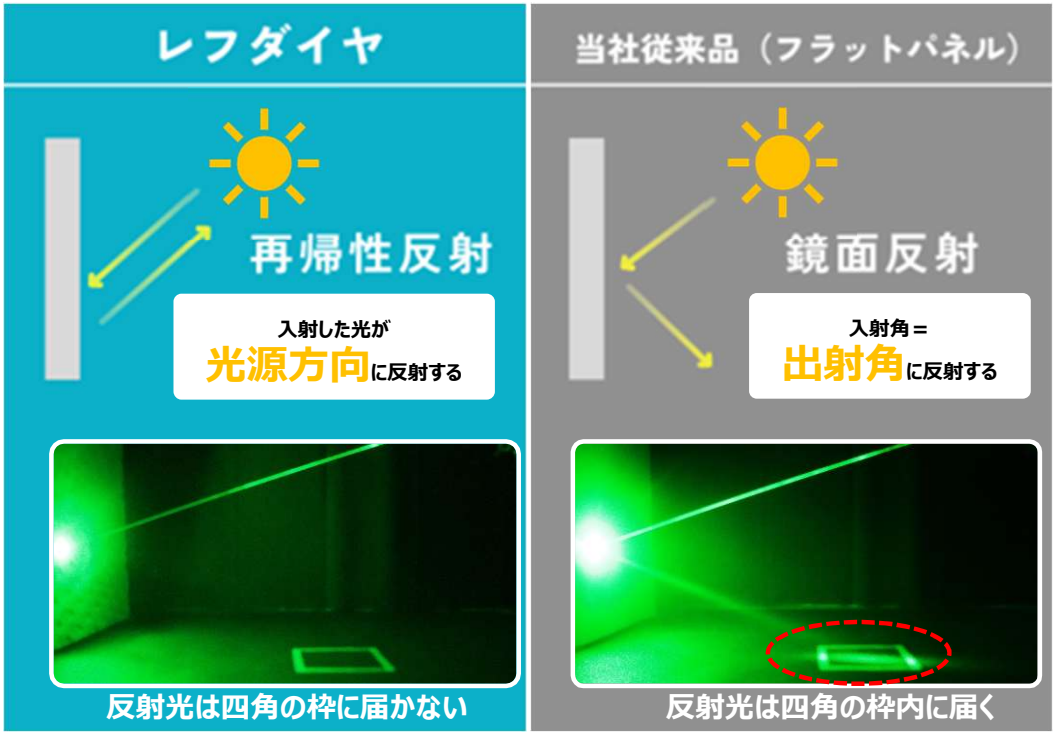
6．トピックス－新商品発売

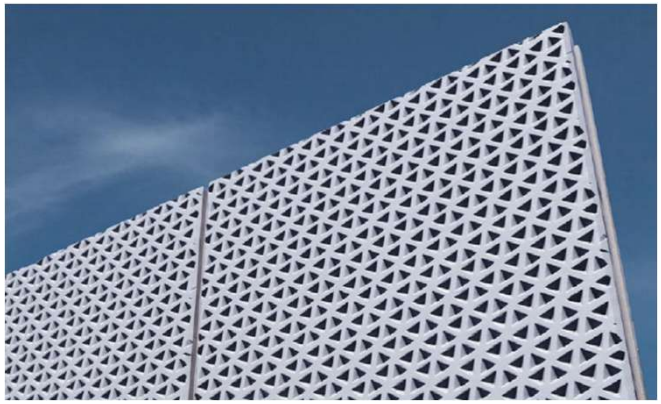
株式会社ノザワ

「レフダイヤ（REFDIA）」を2026年10月に発売
太陽光の反射によるヒートアイランド現象緩和に期待

押出成形セメント板「アスロック」のデザインパネル「レフダイヤ」は、三角錐を組み合わせた独自の表面形状により、太陽光を太陽の方向へ反射する「再帰性反射※1性能」を備えています。
再帰性反射により、太陽光が地面に届かないことから、周辺の建物などの温度上昇を抑え、ヒートアイランド現象※2の緩和が期待できる、デザイン性と環境への配慮を両立した外壁材です。

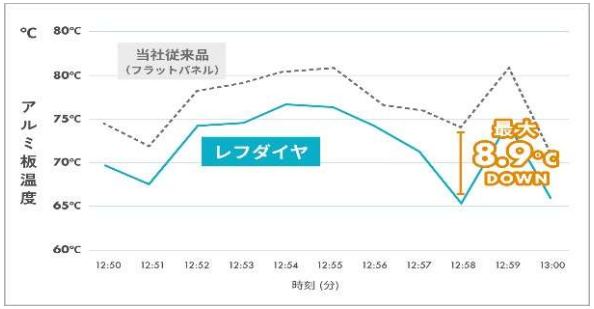
※1 再帰性反射 ：光を、光が来た方向へ戻すように反射する性質です。
※2 ヒートアイランド現象： 都市部の気温が周辺地域より高くなる現象です。レフダイヤは再帰性反射で周辺建物の温度上昇を抑え、この現象の緩和が期待されます。





日射反射機能パネル「レフダイヤ」

夏季の屋外におけるパネル正面に設置したアルミ板の表面温度を比較した結果、レフダイヤは当社従来品に比べて温度上昇が8.9℃抑えられることを確認しました。



６．トピックス−本社ショールームをリニューアル

株式会社ノザワ

本社ビル内のショールームを全面リニューアルしました

2026年8月28日、本社ビル内のショールームを全面リニューアルしました。展示スペースを従来の約3倍となる110㎡に拡張し、素材を「見て、触れて、比較する」ことで、実際の建築空間をイメージできる空間へと生まれ変わりました。「アスロック」26品種と内装材「ナチュラーレ」10品種を常設展示。新商品や新意匠品も「実物大」で展示し、素材の質感や色合いに加え、パネルの納まり※や裏面の金具による留め付けなど、実際の施工を想定した構造やディテールもご確認いただけます。建築・設計の専門家の方にも、実物を見ながら技術的な説明ができる展示となっています。ご来場の皆さまからは「多くの商品を一度に比較できる」とご好評を頂いています。
今後も、商品への理解を深め、新たな採用や提案につながる場を目指してまいります。

※ 納まり（おさまり）とは、建築部材同士の接合方法や、取り付け・仕上げ方法のこと。

本社　ノザワショールーム展示商品



押出成形セメント板「アスロック」



スレート・ボード「ナチュラーレ(NATURALE)」



「太陽光パネル」(左)　「ミルフィア」カラーサンプル(右)

６．トピックス－ＩＲ情報を更新

「個人投資家の皆様へ」ページを新設しました

ノザワの事業や強み、成長戦略をよりわかりやすくお伝えするため、当社ホームページに「個人投資家の皆様へ」ページを新設しました。
「ノザワとはどんな会社？」という基本的な情報から、長い歴史の中で培ってきた技術力や財務基盤、株主還元、中期経営計画「NOZAWA NEXT3」による今後の成長戦略まで、図や数字を活用してわかりやすくご紹介しています。
株主の皆様にも、改めてノザワへの理解を深めていただける内容となっています。
ぜひご覧ください。

「個人投資家の皆様へ」ページ







「個人投資家の皆様へ」ページ

URL：https://www.nozawa-kobe.co.jp/ir/individual.html

６．トピックス－社会貢献

野澤社長が兵庫県功労者表彰（産業振興功労）を受賞しました

当社代表取締役社長 野澤俊也が、「兵庫県功労者表彰（産業振興功労）」を受賞し2026年5月29日、兵庫県公館において表彰されました。
今回の受賞は、長年にわたり、建材分野の高度化に対応した製品開発や、強固な生産体制の構築を通じて、当社の持続的な成長と地域経済の活性化に貢献してきた実績が評価されたものです。
当社は今後も、さらなる技術力の向上に努めるとともに、地域社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長　野澤俊也

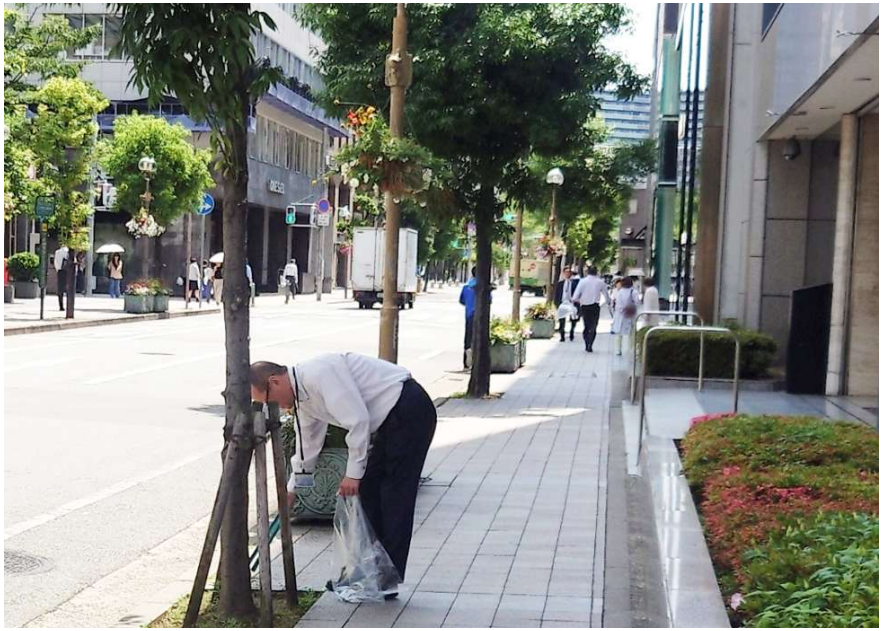
６．トピックス－社会貢献

神戸旧居留地エリアの清掃活動の取り組み

2026年6月11日、旧居留地連絡協議会が実施するクリーン作戦に参加しました。当社は同協議会の一員として、年4回、神戸旧居留地エリアの清掃活動に取り組んでいます。当日は、近隣企業・団体から約150名が参加し、地域の美化活動を行いました。 今後も、地域社会の一員として、旧居留地のより良い街づくりに積極的に貢献してまいります。



クリーン作戦開始あいさつの様子



旧居留地での美化活動

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。